

ヒロシマ ユネスコ

ユネスコサロン・総会

第124回ユネスコサロン
 と き：5月20日(土) 午後1時30分
 講 師：前広島留学生会館館長 荒木史子さん
 テーマ：「新しい経験」
 参加費：お茶代 100円

2006年度総会
 と き：5月20日(土) 午後3時10分
 と ころ：サロントも広島市まちづくり
 市民交流プラザ 北棟5階
 研修室A (中区袋町3-36)

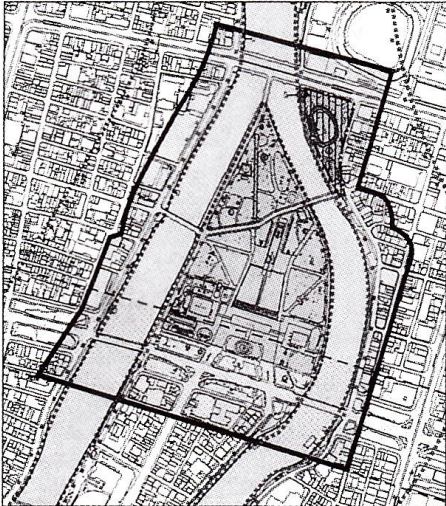
世界遺産保護で要請行動

原爆ドーム周辺の景観保全を

広島県にある二つの世界遺産、原爆ドーム(広島平和記念碑)と厳島神社が、世界遺産に登録されて十周年を迎える今年、その存在を脅かす事態が発生しています。

厳島神社は、米軍空母艦載機の岩国移転による環境破壊等の被害が予測されます。

原爆ドームは、その緩衝地帯に建設中のマンションによって景観が著しく損われる局面を迎えています。そこで、広島ユネスコ協会は、四月十八日、高橋副会長(平和・世界遺産担当)、亀井常任理事(平和部会長・世界遺産担当)、山本事務局長が



緩衝地帯の区域図

建設業者、広島市に対して要請を行いました。

△要請要旨▽◇「広島市は人類初の原子爆弾を投下され、故に平和を世界へ発信する都市であり、原爆ドームはその『証人』とする広島県・市民の願いが百六十五万人の国会請願署名となり、世界遺産への登録が実現したもので、アウシユピッツ強制収容所とならんで人類の負の遺産として後世に伝えるべき人類共通の遺産。◇原爆ドームと緩衝地帯は世界遺産登録の対象物件であり、『世界遺産条約』は、その保護を国に求めている。高層ビルはその景観を損う。

△要請行動▽◇業者(文書手交) / 「規模縮小・景観保持」◇広島市都市計画担当部長ほか(面接・文書手交) / 当協会「業者への規模縮小要請」、市「現在の美観要綱では

規模縮小を促す法的根拠とはならない」。当協会「建築物の高さ規制を含む条例を早急に整備されたい」。◇日本ICOMOS国内委員会(文書郵送)「広島市の現行の美観形成要綱は建築物の高さ規制もなく世界遺産保護上効力を有さない。広島市に対し、建築物の高さ規制を含む世界遺産保護のための条例を早急に施行するよう要請された」。

△建築物▽◇広島市中区平和公園東入口、原爆ドームから約百メートル、爆心地から約三十三メートルの緩衝地帯内。◇原爆ドームより約十九メートル高い約四十五メートルの高さ。十四階建て。五十一戸。建設業者(三井不動産株式会社広島支店)「二〇〇七年二月完成予定。全戸完売。建設は違法ではない」。

△関係法令等▽◇「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」第四条「遺産を認定し、保護し、保存し、整備して将来の世代へ伝えることを確保することが自国に課された義務」。

◇「原爆ドーム及び平和記念公園周辺建築物等美観形成要綱」(広島市)。

△結び▽当協会の折衝活動・記者会見、また被爆者、平和活動家らの十一団体でつくる「景観を守る会」の要請行動など報道各社は丹念に報道しています。四月下旬現在、十階まで建築続行中で、このまま進めば遺産価値が損われ、危機遺産にも指定されることが懸念されます。(ドイツ・ケルン大聖堂は、ライン河を隔てた対岸の緩衝地帯ではない。の高層ビルによって二〇〇四年危機遺産に指定)

日本の国および国民、広島市および市民は、原爆ドームを保護する義務を世界の国と人々に対して負っています。現在進行中のビル建設は、視覚的景観はもちろん、その一帯が有する平和の聖地であるという精神的空間を侵すもので、遺産保護の義務を怠っている様を内外に曝すような、恥ずべき事態を何としても阻止したいものです。

(常任理事・亀井 章)

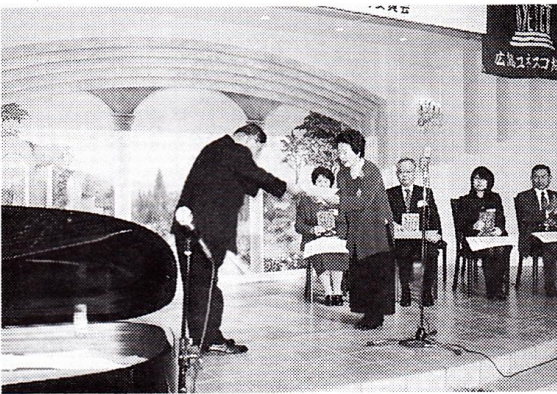
④緩衝地帯Ⅱバッファゾーン／世界遺産保護のために設けられた利用制限区域(原爆ドームでは平和記念公園、周辺は西側の本川小学校、南側の土谷病院も区域内)◇ICOMOS／記念物及び遺跡に関する国際会議◇危機遺産リスト／世界遺産委員会は遺産に関する報告を受け、それが深刻であればリストに登録され、緊急措置がとられる。

新春フェスタ盛大に開催

奨励賞表彰とシャンソン鑑賞

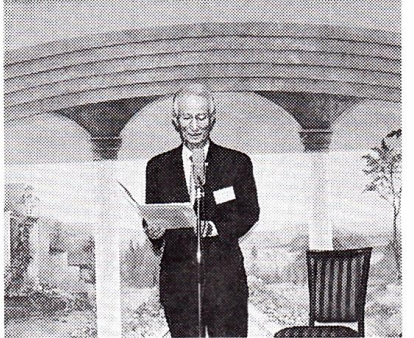
国際理解・協力・交流の活動を顕彰する広島ユネスコ活動奨励賞(主催/広島ユネスコ協会、後援/広島市教育委員会)の表彰式と新春コンサートを組み合わせた恒例の『ユネスコ新春フェスタ2006』は、八回目を迎えて一月二十二日、エンジェルパルテで開かれました。

第一部の第八回奨励賞表彰式では、まず、審査委員長の日本ユネスコ国内委員で広島経済大学中山修一教授が受賞団体のそれぞれの活動評価を交えながら講評。続いて賞状と記念のプロ



社会部門は三団体。楠那ネパール友好協会はネパールへの友好親善訪問や留学生との交流活動。スリランカ友の会はスリランカの学校への学用品の贈呈などの友好親善活動。日本語教室「もみじ」は地域に在住する外国人のための日本語教室の開設と指導者養成講座の実施などの国際交流活動に対して。表彰式の最後に受賞団体がそれぞれ活動内容を発表しました。第二部は、広島を中心に活動するシャンソン歌手山縣明

ンズ楯が次の団体に贈られました。学校部門は五校。広島市立阿戸小学校は英語活動の学習成果を生かした異文化とのコミュニケーション能力の育成活動。比治山女子中学・高等学校は韓国源花女子高校との交互訪問を中心とした国際交流活動。県立広島高等学校はグローバルスタディによる授業の企画、実施を通しての国際交流教育。



久さんによる「新春シャンソンコンサート」。為保直子さんのピアノ伴奏で山縣さんは「枯葉」「雪が降る」「愛の賛歌」「ひまわり」など十二曲を、甘く、時に力強く歌い上げ会場の参加者を魅了しました。また、山縣さんは歌の合間に、コンサートの収益金を原爆ドーム補修のために寄付したことやこれまで歩んで来た道のりを語り、熱い拍手が送られました。

れ替わりメンバーの紹介やスピーチをするなど、和やかな雰囲気の中にユネスコ会員と受賞者との交歓、交流の場は盛り上がりました。今年も年の始めにふさわしい『ユネスコ新春フェスタ』となりました。

表彰式、コンサートに続くパーティーでは、受賞団体が入

2006・5・8 大邱ユ協訪問団来広

広島ユネスコ協会は、広島市の姉妹都市である韓国・大邱市でユネスコ活動をしているユネスコ大邱協会と二〇〇〇年に姉妹提携の協定に調印をいたしました。今年で七年目を迎えたことになり、この間、友好と親善を深めるために、相互訪問をしたり、児童画の交換をするなどの国際交流事業を進めてきました。(二〇〇四年に、四年間の提携を終えて第二次提携の調印をしております。)今年、大邱協会からの訪問団を当協会が受け入れることになっており、このほどその日程

とメンバーが決定しました。一行十一名は五月八日から十二日までの五日間、広島、松江、大山を訪問されますが、八日から十日まで広島市にお迎えして、到着日にこのプログラムではじめてのホームステイを経験していただきます。九日夕刻、歓迎レセプションで熱烈歓迎の意を表し、十日には、藤井孝行古田公民館長(当協会常任理事)の橋渡しで、古田公民館の日本語教室の有志のかたがたを中心とした昼食会とそのあとの日本文化観賞会に参加していただきます。

昨年、大邱の子どもたちが描いた絵も展示して両市の友好の証しとして見学していただくことにしています。三日間の日程と団員は次のとおりです。

△日程▽五月八日(月)十六時三十分ホストファミリーとの対面式(国際会議場) ◇五月九日(火)十三時三十分市内散策と買い物、十八時三十分歓迎レセプション(リーガロイヤルホテル) ◇五月十日(水)十二時昼食会・日本文化鑑賞(古田公民館)

△団員名簿(敬称略)▽◇徐千済(大邱協会会長) ◇崔善姫 ◇朴正玉 ◇金在先 ◇林炳珠 ◇李花子 ◇宋承達 ◇李壽子 ◇呉喆漢 ◇姜明子 ◇金孝哲 (常任理事・藤井正一)

若い力 結集の必要性を確認

広大附高ユ班、杉並ユ協青年部と交流会

広島大学附属高等学校ユネスコ

コ班(クラブ)と杉並ユネスコ



協会青年部の交流会が、三月三十日に広島大学附属高等学校第一社会科教室で行われました。杉並ユネスコ協会青年部は、板倉徳枝副会長と六名の青年(写真)が、広大附属高校ユネスコ班は、藤原隆範顧問と五名の生徒が参加し、広島ユネスコ協会からは山本隆信事務局長が参加されました。地域のユネスコ協会の青年部と、高校のユネスコクラブの交流会は、非常にまれ

講座「はじめてのハングル」終了

二月から三月にかけて、「はじめてのハングル」を広島ユネスコ協会と青少年センターとの共催で開催しました。参加者は、昨年度より少ない十六名で、全員社会人です。毎回、熱心な参加がありました。

講師は昨年度に引き続き朴英珍先生に依頼。ことば、料理、衣装等を通して、韓国をより身

な試みではないかと思えます。

交流会は、まず自己紹介から始まり、次に、それぞれのグループでの活動内容の報告を行いました。山本事務局長がお茶とお菓子を用意され、初対面とは思えないほどちとけた、ざっくばらんな雰囲気でした。交流会はすすみました。

杉並ユネスコ協会青年部は、一人の活動期間が十年間と長く、しかも限られた地域の青年が集まるため、計画性と機動力に富み、何かあるとすぐに結集するというアクティブでスピーディーな活動が「売り」ということでした。地域の中学校の「総合学習」の授業などに講師として参加したり、英語の学習会をおこなったり、あるいはカラオ

近を感じる講座となりました。講座は、ハングルの仕組み、発音の説明、その中から、韓国の習慣、生活、文化が伝わるよう工夫がされていました。韓流ブームを単なる流行の一過性に終わらせたくない、といった先生の熱意と韓国の「もてなしの心」を感じることができ、受講生もその熱意を受け止め、熱心に耳を傾けておりました。

この講座から、日本語の「愛」が韓国語で「サラン」と言うこ

ケに行ったりなど、多様な活動が報告されました。これには、板倉副会長の指導力が大きいものと思われました。

それに対して広島大学附属高校は、全国ではほとんど残っていない高校ユネスコクラブを四十年近く存続させており、運動部や管弦楽など他のクラブ活動と両立させながら、地道な活動を続けてきたことが報告されました。広島ユネスコ協会と連携して、「広島ユネスコ高校生をつどい」で街頭募金活動を行ったり、「全国高校ユネスコ大会」を主管校として成功させてきたことが報告されました。

地域でのユネスコ活動と高校でのユネスコ活動は、おのずと活動の形態は異なりますが、明

当協会が「市政功労表彰」受賞

去る四月三日、広島市役所で行われた「広島市政功労表彰式」で、当協会が「教育・文化・スポーツ振興功労」の部門で表彰され、北川会長が、表彰状(写真)を受領しました。

当協会結成三十三年目の春、多くの諸先輩が今日まで営々と築かれた歴史に新たな一ページを記しました。



綿部半蔵



日の世界、地球の未来をつくっていくには、若者の力を結集させることがどうしても必要だということを確認し、今後とも交流を続けていくことを誓い合っています。交流会を通して、参加された杉並ユネスコ協会の会員は、板倉副会長をはじめ全員が、広島をとて愛して下さっていることがわかりました。広島カーブの大ファンであったり、将来は広島大学に進学したいという話も聞かれました。「広島」で生きることの意義を、あらためて痛感させられた実り多い交流会でありました。(理事・藤原隆範)

特別寄稿

ドイツ渡航プロジェクトを実施し、環境問題への理解を深めました

広島大学附属高等学校
ユネスコ協同学校推進室

高田 準一郎

広島大学附属高等学校では、三月二十日から二十五日の日程で、「日独高校生による環境問題の理解を深めるための相互交流」を実施しました。このドイツ渡航プロジェクトは、ユネスコ青年交流信託基金事業（ACCU）によるものです。参加生徒は、高一〜二年生の四名で、本校教員の高田と伊賀が引率にあたりました。

エコプログラムの一日目は、カーン氏の案内で、カールスルーエ市のクラインガルデン（市民農園）を訪問しました。このクラインガルデンは、人々の憩いの場を提供するだけでなく、自然の多様性を保持するうえで重要な意味をもっています。夕刻、カールスルーエからICE（特急）で一時間ほどのフライブルク市に移動しました。二日目は、フライブルク市内のシュタディンゲル総合学校で、三十人ほどのエコワット参加の生徒たちと環境プレゼン

テーションや情報交換を行いました。エコワットプロジェクトでは、省エネをはじめとしたさまざまな環境に対する取り組みを、環境教育の活動として実施しています。省エネによって得た利益は、学校運営に還元します。ウィツェル先生からは、太陽光など自然エネルギーの発電量や校内の電気消費量などを示した電子パネルの説明を受けました。この電子パネルで、どれだけエネルギーを節約したかわかる仕組みになっています。

球の種類による効率の違い、ヒーターの熱の調整の仕組みについての発表がありました。情報交換では、日本の文化や音楽の話題で盛り上がりました。夕刻、フライブルクの環境レポートで知られる今泉みね子さんの自宅を訪問し、ドイツのリサイクルやリユース、新エネルギーなど環境問題への取り組みについてお話を伺いました。

環境プレゼンテーションでは、訪問団の伊東さんが自転車と路面電車、奥本さんが地球温暖化、趙さんが太陽光発電、桑木くんがエネルギー問題について、グループ発表では、広島市の環境問題の取り組みについて、それぞれパワーポイントを使って英語で発表しました。エコワット参加の生徒からは、演示実験を通して、風力発電や太陽光発電の仕組みや、電

のリヒャルトIIフェーレンバッツハ職業学校を訪問しました。この学校では、ソーラーパワーなど再生エネルギーに対応できる技術者の養成に力を注いでいます。この学校でひとときわ目を引くのがソーラータワーです。スローヴィック校長先生から、ソーラータワーに関わる再生エネルギーについて、レクチャーを受けました。午後、フライブルク交通局を訪問し、広報担当のヒルデブランド氏からフライブルク市の交通計画についてお話を伺いました。フライブルク市がエコ都市となったのは、戦後の復興の時だったそうです。伝統的街並みの復興を支持する人々が多数となって、「通り」などを当時のまま引き継ぐことに成功しました。自動車を使わず、トラム（路面電車）など公共交通機関を発達させていくき

っかけは、ここにあったのです。四日目は、NGO団体であるBUND（ドイツ環境自然保護連盟）が運営するエコステーションを訪問し、ベルクマンさんからレクチャーを受けました。エコステーションは、「黒森」からの自然材質を使ったモデルハウス、有機栽培の畑やハーブ園を備えた庭園などがあり、環境教育センターの役割を果していました。一九八六年に設立された。今年で二十周年を迎えるエコステーションには、毎年およそ一万二千人ほどの人々が訪れています。ここでは、世界遺産をテーマにした本校の附属中学生が作成した十余りの作品を寄贈しました。ベルクマンさんにとっても興味を示されたのは、「白川郷」を紹介した作品でした。午後からは、ヴォーバン地区のエコ住宅街を訪問し、デレ

スケ氏からこの地区誕生の成り立ちや環境への対策などのお話を伺いました。断熱設備のある集合住宅や自転車利用やトラムの誘致など、環境への配慮と住みやすさを追求した「地域づくり」の取り組みが続いています。このあと、青々とした芝生もったパデノヴァスタジアムを訪問しました。市民分譲の仕組みをもった太陽光パネルや地熱発電やコージェネレーションなどユニナイダー夫妻からお話を伺いました。

今回のドイツ渡航プロジェクトでは、コーデイナーや通訳など、ドイツ在住の岸さんと八木さんに大変お世話になりました。ドイツ渡航プロジェクトによるエコプログラムの成果は、校内での文化祭や全国高校ユネスコ研究大会などで報告する予定です。

「平和トーク〜61年目、明日への伝言」(仮)

日時	6月10日(出) 14:30~16:30
会場	広島平和記念資料館(原爆資料館) 東館第1会議室
趣旨	被爆60周年を昨年終え、ヒロシマは新たに61年目を歩み始めた。この60年、ヒロシマが語りつづけてきた要諦を再確認し、今後、核兵器廃絶に対して有効な被爆体験継承の道筋を探る。被爆者は証言活動を通じて戦争を知らない世代に何を、どのように伝えてきたか、一方、戦争を体験しない彼らは、その証言をどのように受けとめてきたか。被爆者が戦争を知らない世代に伝えきれていないものがあるか、あれば、それは何か。戦争を知らない世代が被爆者から伝えて欲しいことは何か。
出演	コーデイナー/広島平和文化センター 斉藤忠臣理事長 被爆体験証言者/高橋昭博さん、池田精子さん 平和活動グループ/野上由美子さん 中学校教員、広島大附高1年生松下英樹さん
主催	広島ユネスコ協会

ユネスコ サロコ はじめて地域へ出前

これまで、長年、会場を市内中心部としていたユネスコサロコを、各地域に出前の形で実施し、多くの市民のかたの参加を得て、ユネスコ活動を身近に感じていただくという試みをした。ほど実施いたしました。

はじめての試みである今回は三月十九日(日)に西区の広島市古田公民館での出前事業として開催いたしました。

当日は、WBCの野球大会決勝戦(キューバ対日本)の放送があり、参加者数を心配しましたが、小学生から高齢者まで五十一名という多くの参加があり

盛況でした。

今回のテーマは、「アンデスの響き〜フォルクローレ(南米民族音楽)と南米での体験」で、「カステイジョ・デ・アンデス」のグループメンバー(叶堂秀城さん・叶堂恵子さんほか三名)による音楽演奏とトークでした。

演奏者の叶堂秀城さんは、一九九七年から二〇〇〇年まで南米コロンビアにて日本人学校に勤務されていましたが、その学校の講師であるペルー人演奏家フロイラン・システイさんに師事され、フォルクローレ楽器、

とくにケーナの奏法を学ばれました。帰国後、演奏グループを結成され、活発に演奏活動をされています。

演奏は、アルゼンチンの「花祭り」から始まり、「コンドルは飛んでゆく」など十曲、曲によっては参加者が曲に合わせて軽快に踊ったり、かけ声を出したり、という場面もありました。

また、曲と曲との演奏の合間には、南米での生活体験のトークがあり、「コロンビアの日本人学校での運動会では、誘拐などの危険防止のため、学校のまわりに多数の警察官が配置されていた」、「危険な所が多いので学校の遠足は飛行機を利用して」、「コロンビアはエメラルドの生産量世界一である」、「南米の多くの演奏者は楽器演奏で楽譜はなく、体で覚えた曲を演奏している」、「南米の人々は陽気で明るい人が多い」、「南米の生活では音楽は欠かせないものとなっ



ている」などと興味深いお話をわかり易く話されました。会場の参加者は楽しいひとときを過ごされた様子でした。

広島ユネスコ協会では、今後も、機会をみて、こうした企画を実施することも検討しています。(写真はフォルクローレ演奏の様子)

(常任理事・藤井孝行)

古田公民館館長

メールマガジン配信希望者を募集しています

広島ユネスコ協会では、メールマガジンの読者を募集しています。広くユネスコ活動を理解していただくために、広島ユネスコ協会に関するニュース、ホームページの更新のお知らせなどを内容とします。購読料は無料です。

配信を希望されるかたは、ホームページ上の「メールマガジン申込み」をクリックし、名前と「メールマガジン配信希望」と記入して返信してください。

ホームページは、YAHOO(ヤフー)やgoo(グー)などの検索ページの検索窓に「広島ユネスコ協会」と書き込んで検索ボタンかEnterキーを押しますと、ページの所在が表示されますので、そこをクリックしていただくと見ることができます。

七月十九日を「民間ユネスコ運動の日」に

一月二十一日(土)の日本ユネスコ協会連盟理事会で、毎年七月

日、日本において、世界に先駆けて民間ユネスコ運動が発足した。

民間運動の担い手は、世界の平和を希求し、全国一斉に行動し、相互の連帯を強め、世界と未来世代に対して、その存在意義を強くアピールするとともにより一層の協力・支援を求め

る。
2、目標—①日本で起こり世界中に広がった民間ユネスコ運動は、他に類例を見ない市民運動であることを認識する。②民間ユネスコ運動が基となって、ユネスコ加盟を果たし、戦後日本が国際社会に復帰できたことを思い起こし、将来にわたって平和な社会を築くための活動を強化する。全国一斉に取り組む具体的な活動を展開し、マスコミなどを通じて民間ユネスコ運動について広報する。

これに基づいて実施方法や全国共通の事業展開案を考えることにしている。

またユネスコ月「マンス」を十一月とし、主としてユネスコ憲章並びにユネスコ活動の現代的課題等について学習したり、周知を図る月間とする、としています。当協会もこれらの線にそって具体的な活動案を考えなければなりません。

「書き損じはがき回収」協力に感謝

一日の食事を支援すれば、一日生かれます。畑をつくれば、一生食べていきます。

でも文字が読めたり、計算ができれば、一人でも自立して生きていくことができます。

貧困の連鎖を断つために、すべての人たちが教育を受けられるよう「学びの場」寺子屋を提供する運動が、日本ユネスコ協会連盟の「世界寺子屋運動」です。

二〇〇五年度も世界中の「学校に行けない」を「行ける！」に変えたい。九億六四〇〇万人の「読めない」を「読める！」に変えたい。すべての子どもたちの「勉強したい」を「勉強できる！」に変えたい。(ユネスコ世界寺子屋運動パンフレットから抜粋)

× × ×

その願いが一日も早く実現するように書き損じはがきの回収に協力していただきましたが、三月末で五三六枚(年賀はがき・普通はがき)集まりました。このほどまとめて日本ユネスコ

協会連盟宛送りました。ご協力くださったみなさんに厚くお礼申し上げます。

なお、今後もこの運動を継続しますので、みなさんの一層のご協力をお願いします。

市立大塚小、はがき回収に取り組む

三月の終り頃、これまで郵便物や電話などの取り次ぎをしてもらっていた広島市牛田公民館のメールボックスに「書き損じはがき在中」と書いた大きな封書が届いていました。

早速開封したところ二百四十一枚(年賀はがき・普通はがき・往復はがき)のはがきがはいつていました。実はこの春三月に卒業した六年生の児童が、総合的な学習で「私たちにできることは」という課題で取り組み、回収したということがわかりました。

六年生担任代表中川富美子先生からお話を聞くことができました。これからの取り組みは継続する予定ということですが、うれしいですね。感激です。

ユネスコ運動が学校の現場で実践されていることは、これか

広島ユネスコ協会年会費の納入をよろしくお願いたします。

解の輪が広がったり、世界平和への芽が育つ一助になることと思います。卒業生のみなさんありがとうございました。

(事務局長・山本隆信)

「ご寄付ありがとうございました」

被爆六十周年の二〇〇五年十月二十一日広島県立体育館で「日野原重明・小澤征爾世界へおくる平和のメッセージ」(実行委員会会長二宮義人さん)が開催されました。

その益金の一部四十万円(寄付目録)が次代を担う子どもたちのためにと一月二十二日新春フェスタ二〇〇六の会場で実行委員会黒瀬真一郎幹事会代表・事務局長(当協会理事)から北川会長に手渡されました。

ユネスコ青少年育成基金に組み込み有意義に運用させていただきます。

この催しでは「お二人を中心に、広島・長崎で原爆によりかけがえのない生命を奪われた多くの方々に鎮魂の祈りをささげ、次代を担う子どもたちに希望を与える、生命と平和のための人間賛歌を共感したいと願う」市民と学生のボランティアの協力のもと出演者と参加者が心を一つにして「ヒロシマの心」を世界へ発信されました。

日誌

1月

- 22日/新春フェスタ(エンジェル・パルテ)
- ユネスコ活動奨励賞表彰式 学校部門五校・社会部門三
- シャンソン&トーク シヤンソン歌手山縣明久・伴奏 為保直子
- 記念パーティー
- △2月
- 3日/「平和シンポジウム」関係者会議(市民交流プラザ)
- 6日/新春フェスタ報告書提出
- 18日/世界遺産「原爆ドームパツファアゾン問題」協議。
- 北川会長、高橋副会長、亀井担当部長ほか(市民交流プラザ)
- 26日/第百二十二回ユネスコサロン 「わたしの看取り、あなたの看取り」日本尊厳死協会中国支部理事 馬庭恭子さん(国際会議場)
- 26日/理事会 バツファアゾン問題ほか(国際会議場)
- △3月
- 8日/国際交流・協力の日企画会議 山本事務局長代理出席(国際会議場)
- 19日/第百二十三回ユネスコサロン「南米音楽のつどい・ア ندエスの響き」フォルクロー

レと南米での体験」カステイジョ・デ・ア ندエス主宰 叶堂秀城さんほか四名(広島市古田公民館ホール/共催古田公民館)

19日/大邱協会訪問日程・受け入れについて関係者協議 北川会長・藤井国際部会長ほか(古田公民館)

20日/第五十一回全国高校ユネスコ研究大会報告書提出

28日/31日/杉並ユネスコ協会青年部第八回広島スタディー。証言 高橋昭博副会長(平和記念資料館)

31日/杉並ユネスコ青年部・大附属高校ユネスコ班 意見交換会 藤原理事(大附属高校)

31日/「書き損じはがき」キャンペーン終了・集計発送

4月

- 1日/第五十一回全国高校ユネスコ研究大会総括委員会 北川大会会長・藤原副実行委員長ほか(広島国際学院大学立町キャンパス)
- 3日/広島市政功労表彰受賞 北川会長ほか(広島市役所)
- 9日/組織部会会議(まちづくり市民交流プラザ)
- 18日/原爆ドーム周辺景観保全について市長などへ申し入れ 高橋副会長・亀井常任理事・山本事務局長